

記者発表資料

国土交通省豊橋河川事務所

平成 24年 10月 30日

豊川（とよがわ）における治水の要を小学生が見学

1. 概要 : 豊川市立中部小学校の3年生約130名が人々の暮らしを守る治水事業に関連して豊川放水路の機能や分流堰の操作を見学し、学習します。
2. 日時・場所 : 平成24年10月30日（火）13時15分～14時15分
豊川放水路分流堰管理所（豊川市行明町。下地図参照）にて



3. 添付資料 : 別紙資料
4. 解禁 : 指定なし
5. 撮影 : 自由
6. 配布先 : 豊橋市政記者会
7. 問合せ : 国土交通省豊橋河川事務所
管理課長 長嶋 佳孝 (ながしま よしたか)
電話 0532-48-8105 (ダイヤル) 090-8868-6148 (携帯)
FAX 0532-48-8100

<参考資料>

昨年(平成23年)の様子

10月19日(水)豊川放水路管理所へ、地元の豊川市立東部小学校の四年生約90名が社会見学に訪れました。

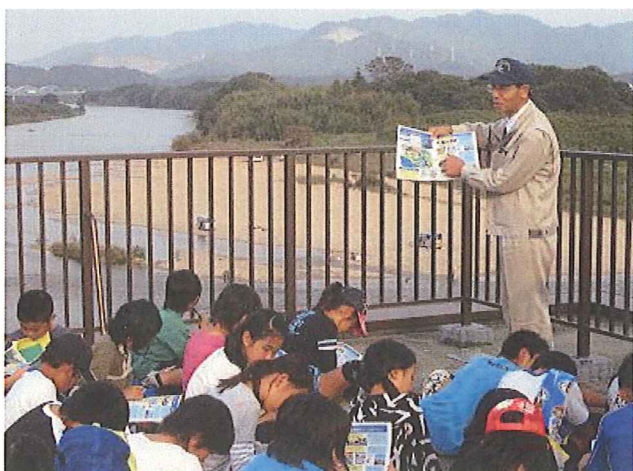
管理所の屋上では、豊川の本川と放水路の分岐点付近を見下ろしながら、放水路とは何か、その必要性、年間のゲート操作回数などについて説明を受けました。

また、管理所二階の操作室では、パソコンで放水路の役割についてのアニメーションを見てから、放水路工事にかかった期間、ゲートの運用方法や操作方法等についての説明を受けました。

児童達からは、「放水路はなぜ直線で作ったのか?」「川の水を放水路と本川でどういう風にわけているのか?」「放水路と本川の分岐地点はどうやってきめたのか?」「放水路ゲートを開ける回数は年平均、最多の年、今年でそれぞれ何回か?」など多数の質問が出ました。

最後に、屋上で記念写真を撮って見学を終えました。

地元の小学校の児童達に、放水路の役割が少しでも理解されればと思います。



管理所屋上で説明を受ける児童達

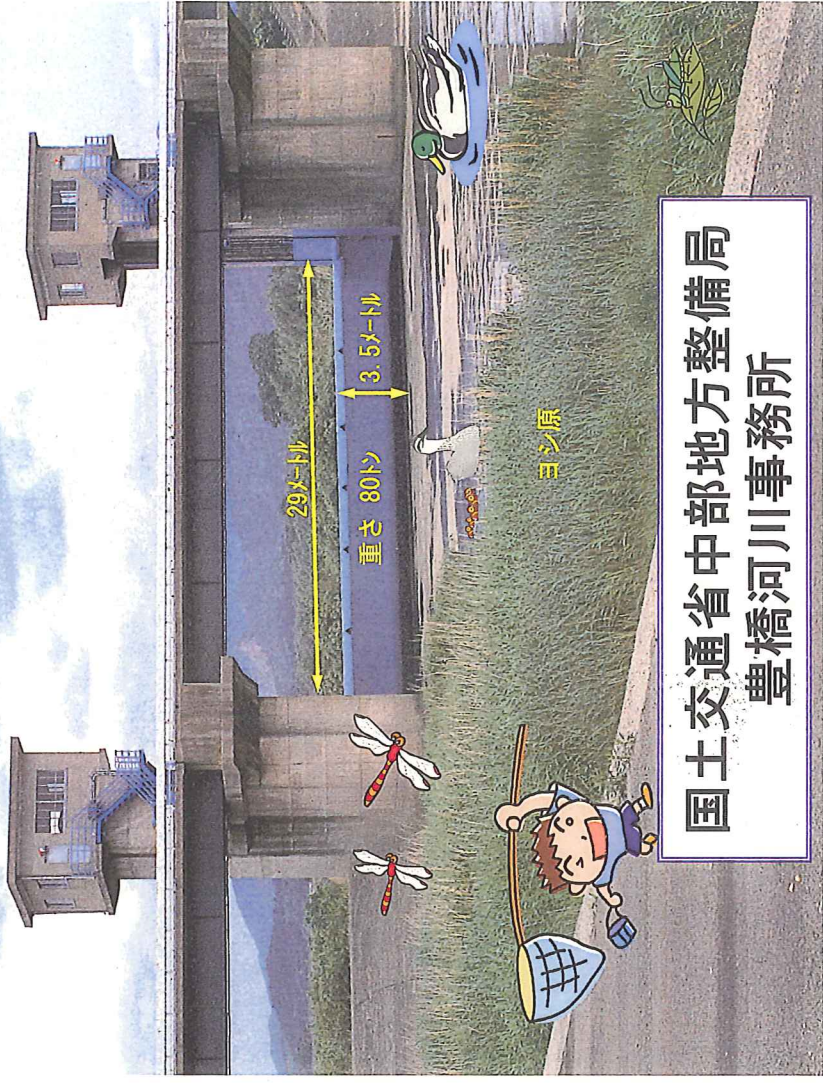


操作室で説明を受ける児童達

とよがわ ほうすいろ

豊川放水路

これが、豊川放水路の「分流ぜき」だよ。



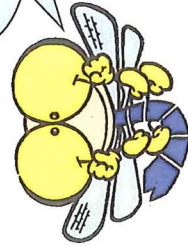
国土交通省中部地方整備局
豊橋河川事務所



平成15年8月台風10号による洪水のようす

こくど こうつうしょうとよはしかせんじむしよ しごと
国土交通省豊橋河川事務所の仕事
とよがわ やはしがわ すいがい
豊川、矢作川の水害をなくすため、川の
ろいろな事を調べて、堤防などを築いたり、
また、川を利用しやすいよう、広場を作っ
たり、人々が安心して、豊かな生活ができ
るための大切な仕事をしているところです。

ムートンくんです。
ヨロシク。



豊川・矢作川についてのれんらくさき
豊橋河川事務所

〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6
(0532) 48-2111

ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/toyohashi/>

私たちの豊川放水路について

豊川放水路とは？

こうずい みかわわん みちび はんらん ふせ
大雨（洪水）の一部を三河湾へ導いて、豊川の氾濫を防ぐ
ために人工的につくられた水路です。

できたのはいつ？

しやうわ
昭和13年（1938年）に工事を始めて、多くの人々の協力により
昭和40年（1965年）にできあがりました。



27年もがんばっ
たんだね！

きょうりよく



豊川放水路をもっと知りたい

Q1 放水路ができる前と後での大水の被害のちがいは？



Q2 「分流ぜき」ってなに？



豊川放水路のおかげで、安心して生活できるんだね。



Q3 ゲート（鉄の扉）は？

Q4 分流ぜきのゲートは、いつどうやってあけるの？



サイレンはゲートを開ける合図だよ。サイレンが聞こえたら（20秒が6回）、すぐに放水路から出ようね。



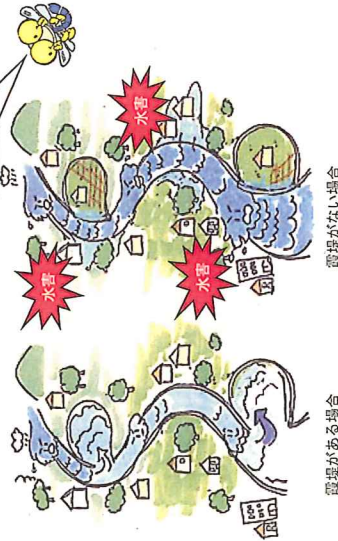
A3 重さ = 約80トンです。
長さ = 29メートルです。
高さ = 3.5メートルです。

A4 ふだんは閉めてありますが、大水の時に開けて放水路に水を流します。
管理所の操作室からパソコンを使って開けたり閉めたりします。1年間に4～5回、多いときで8回ぐらい操作します。



Q5 大水の時の水って速さはどのくらい？

A5 分流ぜきの付近では、1秒間に2～3mぐらいの速さで流れています。
みんなが自転車に乗っている時の速さと同じぐらいです。



豊川の水害と人々の工夫（震災）

豊川の堤防は昔から、堤防のないところや高さの低いところがあり、大雨や台風のとびごとに水害がありました。そこで震災よばれる、所々で切れたり重なっている堤防をつくりました。大雨の水を、堤防の切れているところで一時的にためて、下流への水害を少なくする工夫です。

豊川には現在では4ヶ所の震災堤が残っていて、水害を少なくするための重要なはたらきをしています。

震災がある場合
震災がない場合